

第2回大学フェア

開催報告書

開催日：2019年4月3日

1. 名称

「2019年 第2回大学フェア」

2. 主催

上海文来高校国際部中日班

3. 趣旨

日本の大学との連携を図り、大学の紹介等をおして、生徒の進学意欲の喚起を図る。

特に、国際部中日班では本年度から3年制課程を併設するため、大学の特色等の紹介を行い、生徒の興味・関心を高めることは、生徒のみならず本校及び大学双方の充実に繋がるものと考えられる。



4. 大学フェア実施の背景

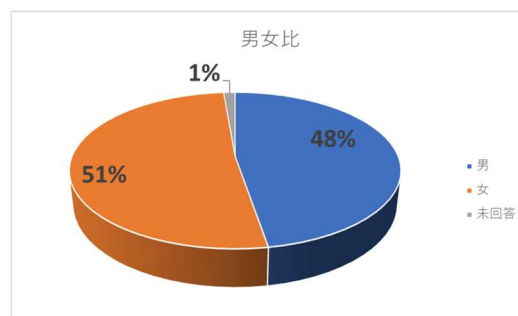
文来高校国際部中日班は、上海市教育委員会の許可を受け、在籍しているすべての生徒は上海高校の学籍を持っている。教育課程の特色は、上海で2年間在籍し、在学期間中に国語・政治・歴史・地理の4科目を合格した生徒は、上海市高校学業卒業資格（国際課程）を授与される。2年修了後、我が校と姉妹校関係にある日本の高校の2年後期に編入学し、1.5年間後に姉妹校を卒業する。（2+1.5方式）姉妹校の卒業生の大半は、日本の大学へ進学するが、上海において、日本の大学に関する情報に触れる機会が少ないため、早い時期から日本の大学に関する情報に触れる機会が必要である。

特に、2018年9月より3年制のクラスを設置する。現在1年次の一部は、3年次に進級することとなっており、そのため、入試情報の提供を含め、高大の接続を拡充することが一層求められている。（詳しくはHP参照：<http://www.xinnan.org/>）

5. 実施内容

5-1 参加者

(1) 学生数：上海市文来高校国際部中日班 150 名
(1 年 3 クラス・2 年 2 クラスの計 5 クラス)



(2) 保護者：50 名（在学生の保護者に限る）※アンケートによる集計

5-2 開催スケジュール（2019 年実施）

日時	項目
10 月 25 日	立案
10 月 30 日	企画書作成
11 月 1 日	協力大学（21 校）へ依頼メール送付
12 月 31 日	協力大学からの参加返答 1 次締め切り
1 月 31 日	協力大学からの参加返答 2 次締め切り
2 月 26 日	参加大学リスト確定＋実施要領の送付
4 月 3 日	大学フェア実施
5 月 3 日	開催後の報告書発行

5-3 当日の日程

時刻	事項	場所	備考
12:10			開始
12:10～13:25	第 1 部	教学楼 4 階 (階段教室)	開会式 各校概要発表時間（各 5 分）
13:40～16:45	第 2 部	国際部中日班棟 (旧図書館棟)	発表会場（各 30 分） 各ブース相談コーナー 資料コーナー
17:00			終了

5-4 参加大学（うち1校は資料参加）（順不同）

大学名	来校者 所属／役職／氏名	備考
大阪大学	東アジア拠点長 小溝裕一 先生 上海教育研究センター 徐怡 先生	
桜美林大学	北京事務所長 小林信二 先生	
大阪市立大学	大阪市上海事務所大阪市立大学担当 呉宇先生	
立教大学	中国事務所 宋丹 先生	
早稲田大学	国際部中国担当課長 楊振 先生	
中部大学	応用生物学部 環境生物科学科 准教授 長谷川浩一先生 中国連携推進室担当課長 小島千草 様	
京都造形芸術大学	中国上海事務所所長 劉昊星 先生	
名古屋大学	中国交流センター 王俊婷 先生	
筑波大学	筑波大学国際室中国拠点 金佳 先生	資料参加

5-5 経過報告（第1部）

第1部では、信男教育学園文来高校国際部中日班の藤野校長から開会の挨拶があり、その後、参加大学8校が各5分間ずつ大学の概要及びブースの内容等について、PPTで紹介した。生徒にとっては、2部の形式と質問内容について理解する機会になったと思われる。

5-5-1 発表大学（発表順）

1	 大阪大学 OSAKA UNIVERSITY	5	 WASEDA University 早稲田大学
2	 桜美林大学 J. F. Oberlin University	6	 中部大学
3	 大阪市立大学 OSAKA CITY UNIVERSITY	7	 KYOTO UNIVERSITY OF ART & DESIGN 学校法人 瓜生山学園 京都造形芸術大学
4	 立教大学 RIKKYO UNIVERSITY	8	 名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY

5-5-2 発表大学の発表内容

- 大学の所在地
- 建学理念
- 著名な卒業生紹介
- 外国人留学生が受験可能な入試情報
- 大学の特徴とカリキュラムなど
- 今年の夏季に予定しているオープンキャンパスやオープンカレッジの案内や日程
- 在籍している中国人留学生の人数とその学部
- 学生生活など



5-6 経過報告 (第2部)

第2部では、発表と相談業務を2会場で同時進行した。発表会場では参加校のうち常時2校が発表を行い、1会場ごとにおよそ30名～35名の生徒が出席した。大学側は1部では紹介しきれなかった細かな内容などをPPTで紹介するとともに、学生から質問を受けながらニーズに基づく発表を行うことができた。

相談ブース会場では、参加大学の8校が各ブースを出展し、パンフレットや募集要項、およびPPTやムービーなどを用いて、1対1で相談できるコーナーを設置した。生徒たちは大学ブースへと自由に足を運び、おのこのの興味・関心、そして入試方法についての相談を行った。

同時に相談ブース会場に設置した資料コーナーでは資料参加した大学の資料を設置し、大学紹介のパンフレットを配置し完配した。

5-6-1 参加大学

1	大阪大学
2	桜美林大学
3	大阪市立大学
4	立教大学
5	早稲田大学

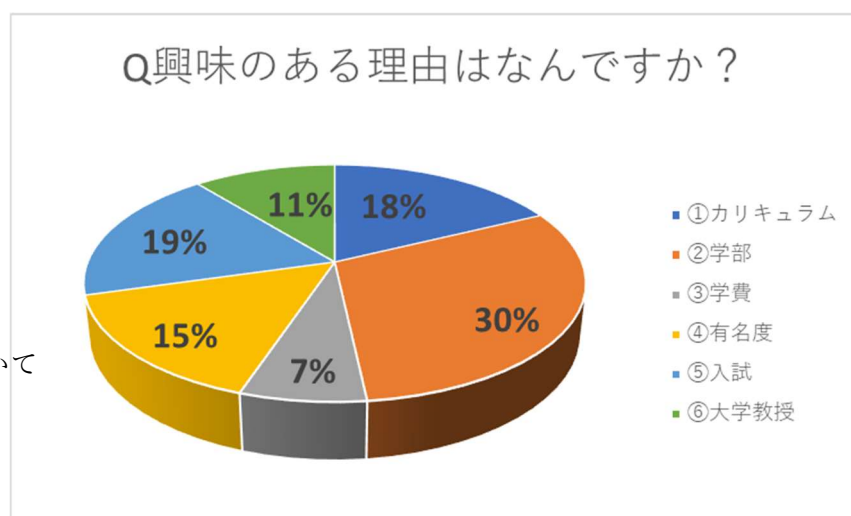
6	中部大学
7	京都造形芸術大学
8	名古屋大学
9	筑波大学

5-6-2 訪問者数 (累計)

約200名 (重複あり)

5-6-3 ブースの質問と相談内容

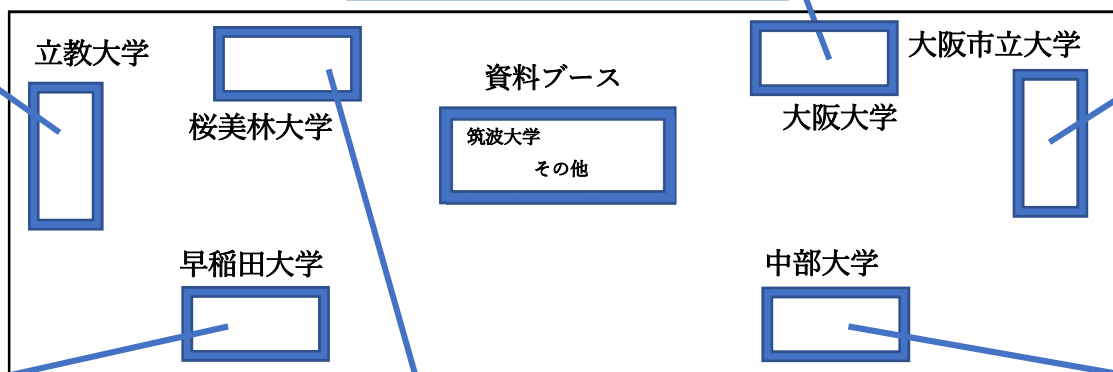
- 入試について
- 学部について
- カリキュラムについて
- 進路について
- 就職先について
- 学費について
- 奨学金について
- キャンパスライフについて
- 寮について
- 留学制度について
- 大学教授について



5-6-4 会場配置

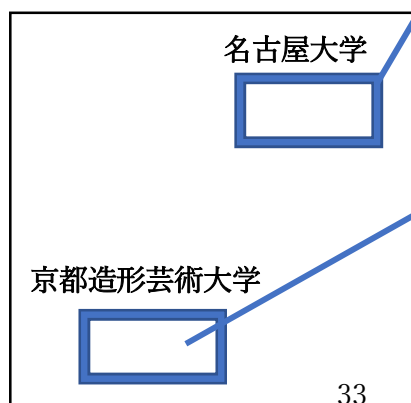
第2部 発表会場 (国際部中日班棟一旧図書館棟 1年、2年教室)

第2部ブース配置図 (国際部中日班棟一旧図書館棟 1年、文系教室及び理系教室)



第2部 ブース配置図

(国際部中日班棟一旧図書館棟 理系教室)



5-7 アンケート結果

アンケート回答者数：150名（男子77名、女子71名、不明2名）

（うち、1年87名、2年63名）

アンケート実施日：開催日

Q興味のある理由はなんですか？

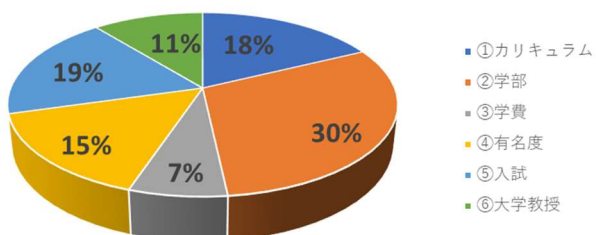


表 1

Q一番知りたかった内容は何ですか？

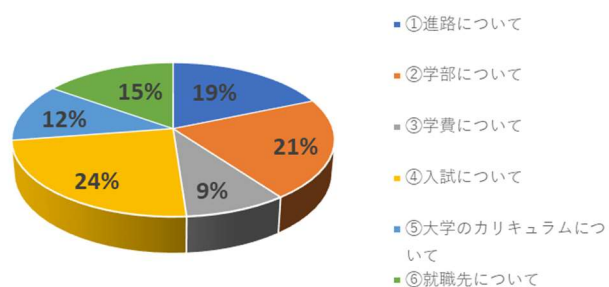


表 2

Qどれが一番ためになりましたか？

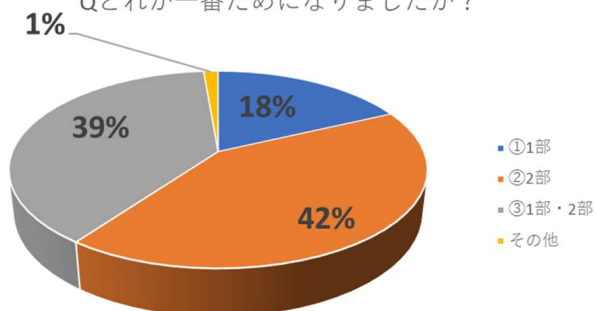


表 3

Q本フェアで知りたいことを知れたか？

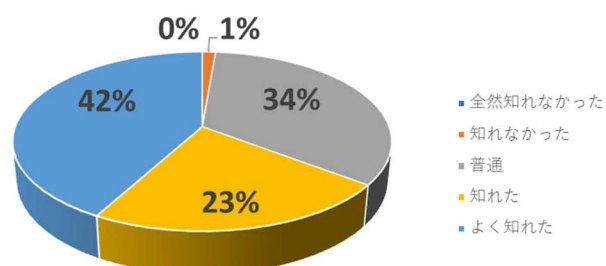


表 4

Q本フェアの満足度を教えてください。

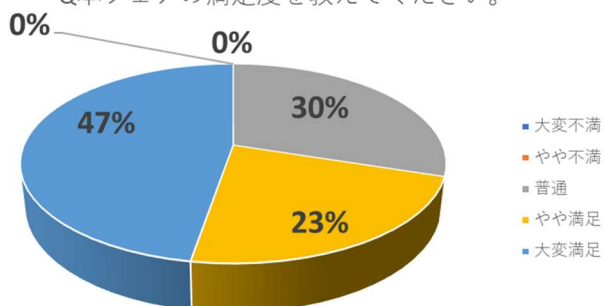


表 5

Q保護者と一緒に参加しましたか？

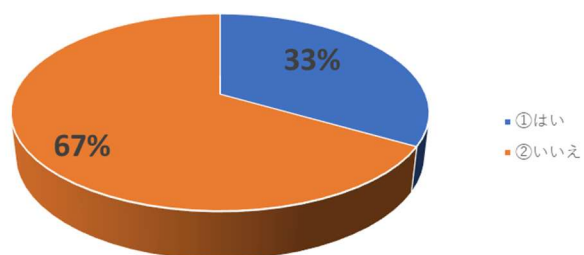


表 6

5-8 1部・2部総括

1部の各大学5分という短い時間とした狙いは、1部に参加した学生には、学級から大学フェアの雰囲気意識を移行する理由と共に、1部の「疑問作り」から2部「疑問解消」へ繋げるという目的があった。相談ブースに向かう前に少しでもどんな大学が出展しているのかを把握しておくことが、ブースに足を運ぶハードル下げる点が理由であると考えたからである。加えて、1部の少ない情報下により生まれる疑問を抱いてほしいという点も、本構成にした狙いである。結果として、2部のブースに足を運んだ学生数は前年（相対比率125%）に比べて200名（重複あり。相対比率133%）と若干であるが上昇した。

他にも、全体アナウンスをする機会を持つ目的もあった。前年は夏のオープンキャンパスや大学説明会のアナウンスをする大学があった。ブースに来た学生にだけ情報が手に入るという情報の偏りを防ぐためにも、全体にアナウンスする機会が必要であったからである。

2部については、約80.6%の学生（N=150）が有意義であると回答しており、1部同様満足したと言える結果となった。2部では、参加が任意であるのにも関わらず多くの学生が、様々な疑問を抱きながらブースへ向かい、大学担当者の話を熱心に聞く様子が多く見られた。

保護者と共に参加した学生Aさんは、入試方法や入試区分（入学要件に該当するかどう）の質問を直接大学窓口にお問い合わせの結果、問い合わせ慣れしていない質問事項に対して現地職員も困惑し、解答までに時間がかかるといったケースがあった。だが、本フェアではその場で回答を得ることができたと話していた。海外の学生を専門に広報活動および進学相談に乗りなれている本日来校された大学担当者は、このような件が慣れているといった点が、参加者のニーズにマッチするアドバンテージとなった。

内容の充実を図るため、昨年実施した1回目の改善点を盛り込んで、今回は大学担当者に対して、本校が希望する説明内容を事前に伝えた。その結果、参加学生（N=150）を対象に行ったアンケートでは、「本日大学フェアで知りたいことは知れましたか」という問いに対して、全体で81.0%（満足度を10段階評価で計算した後の平均値）で満足であると回答しており、この点から考察すれば、学生のニーズに沿ったフェアになったと考えている。

最後に、「本大学フェア全体の満足度を教えてください」という全体で83.4%（満足度を10段階評価で計算した後の平均値）で満足であると回答した。特に、前年の78.8%と比較すると大幅に満足度が上昇しており、回を重ねるごとに本フェアが充実した内容となっていることが分かる。

6. 今後の取組

終了後、職員とともに反省会を設定した。本フェアがより充実したものとなるためには、実施時期、実施場所等の改善が必要である。特に、実施時期については、11月の時期を検討すべきである。今後、アンケートを重ねながら、より改善を図り、生徒たちの進路の充実につなげていく必要がある。

最後に、本フェアが盛会裡に終了したのは、1回目の開催に引き続き、多くの方の賛同と協力があったからゆえのことである。ご多用の中来校いただき、生徒に夢と希望を与えてくださった各大学の先生方に深甚なる感謝の意を表すとともに、今後とも、本校へのご支援ご協力をお願いする。

7. 協力：大阪大学・桜美林大学・大阪市立大学・立教大学・早稲田大学・中部大学・京都造形芸術大学・名古屋大学・筑波大学（順不同）

8. 担当者：

信男教育学園 文来高校国際部中日班
榊原敬治 Keiji Sakakibara
上海市闵行区虹莘路 2166 号文来高校图书馆二楼
Email:sakakibara@xinnan.org

9. 謝辞

本大学フェアは2回目の開催となりました。1回目の開催に引き続き、多くの方の賛同と協力があったからゆえのことである。

そして、今回来校していただき、多くの文来高校の学生へ夢と希望を与えてくださった各大学の先生方に多大なる感謝の意を表したい。

また1回目開催後の目標であった、規模の1.5倍拡充という点においては、招聘大学と参加学生規模を踏まえて、おおむね達成できたと言える。次回開催も目標設定から遂行まで最善を尽くしていきたい。

最後に、本企画の準備・開催中はもちろんのこと、日頃から支援をしてくれていた文来高校の教職員の皆様に感謝するとともに、これからも本校と本校の学生が国際社会において活躍することを願っている。

作成日時：2019年5月3日

作成者：信男教育学園 上海市文来高校国際部中日班
榊原敬治

10. 写真

10-1 第1部の様子



▲藤野校長による開会の挨拶



▲大阪大学先生の大学説明と発表



▲桜美林大学先生の大学紹介と発表



▲大阪市立大学先生の大学紹介と発表



▲京都造形芸術大学先生の大学説明と発表



▲早稲田大学先生の大学説明と発表



▲中部大学先生の大学説明と発表



▲発表を聞く学生たちと保護者



▲立教大学先生の大学説明と発表



▲名古屋大学先生の大学説明と発表

10-2 第2部の様子



